



事例検討グループワークを実施

## 脳卒中の在宅療養者を 多職種でどう支えるか協議

### 第12回中央区地域ケア研究集会

中央区南医師会・東  
医師会を中心に関係団

研究集会の歴史を振り返り、者が増えることを見通し、振り返りつつ、さらに発展させたいと語った。また、稲瀬一夫区長も駆けつけ、行政と医療関係団体が共同し

期待を寄せた。当日は、「多職種で支える脳卒中の方の暮らし」をテーマに、まず「脳卒中！ならへん」と題して、山上宏氏（大阪医療センター）が講演した。当日はウェブを併用して実施され、約160人が参加した。脳卒中は突然起こる病気で様々な後遺症が残ると指摘。高橋

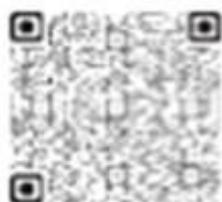
取り組みを発表した。その後のグループワークでは、「障害のある脳卒中の方の暮らしをどう支えるか」「起こり得るリスクや本人の思い」などの観点から検討がなされた。

体で組織した中央区地域ケア研究集会実行委員会、令和4年12月3日午後、第12回中央区地域ケア研究集会を同区民センターで開催した。当日はウェブを併用して実施され、約160人が参加した。

当日は、「多職種で支える脳卒中の方の暮らし」をテーマに、まず「脳卒中！ならへん」と題して、山上宏氏（大阪医療センター）が講演した。当日はウェブを併用して実施され、約160人が参加した。

動報告を実施。佐々木元勝氏（通所連絡会）、乾正人氏（訪問介護連絡会）、林宏和氏（東園科医師会）、徳上洋之氏（南薬剤師会）、西村香穂氏（訪問看護ももの会）、永田弘子氏（居宅介護支援連絡会）がそれぞれ

最後に同区在宅医療・介護連携相談支援室より、近隣区と共同作成した多職種連携ルールブック「れんけいのチカラ」が紹介された。



「れんけいのチカラ」のダウンロードはこちら